

# 北見周辺の気象特性

辻 雅彦 (網走地方気象台)

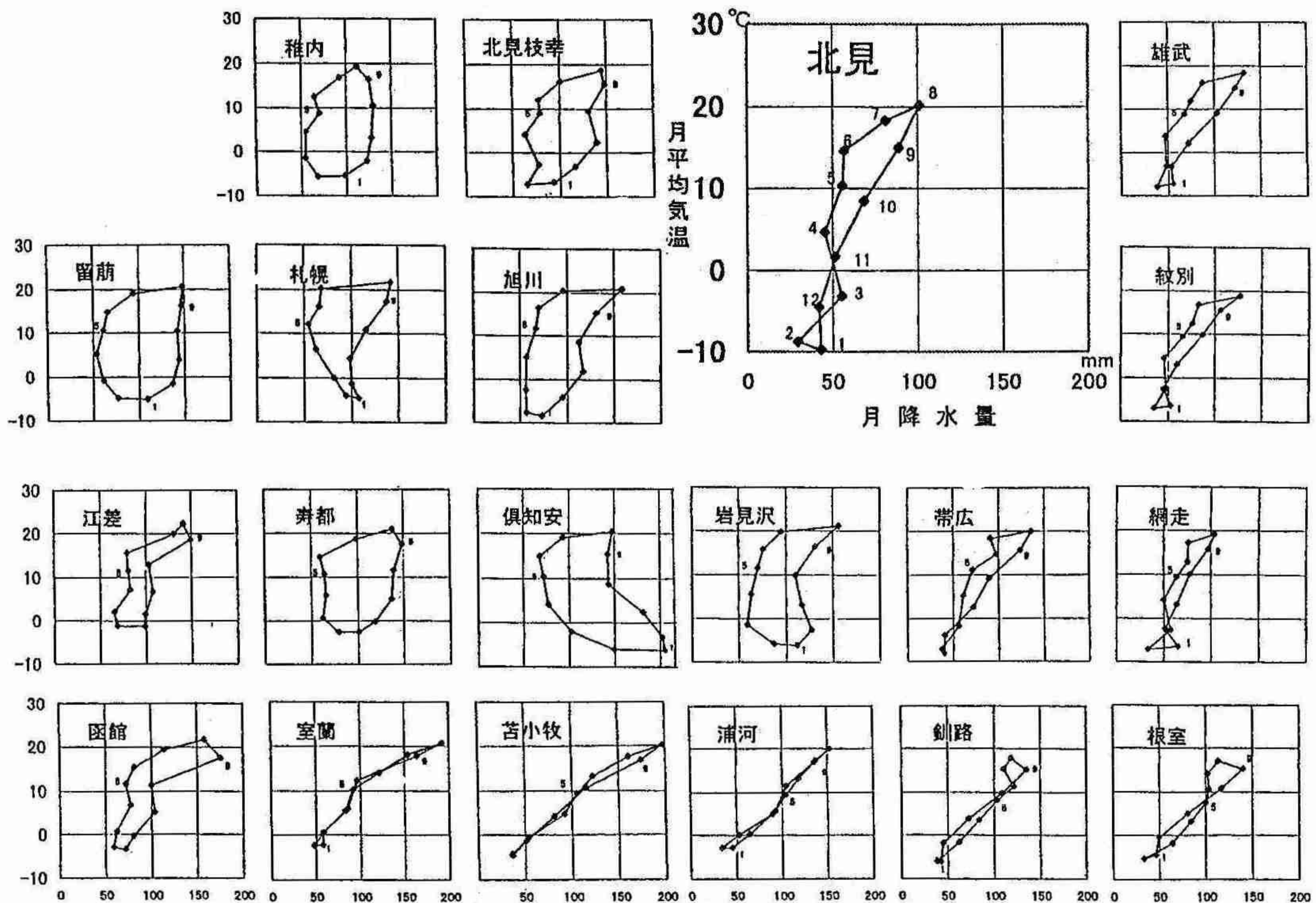
## 1. はじめに

「北見の気象」という言葉から連想されることは何だろう。

あふれる太陽の光と寒暖の差の大きい内陸的な気候といったイメージだろうか。

本稿3ページ目の第5図はアメダスの観測データから描かれた年間の日照時間の分布図である。北見は日照の多い地域ではあるが、それは北見周辺の狭い範囲に限定されたことでもなさそうである。ソーラーエネルギーに関心の高い市民には意外な思いがするかもしれないが、観測データをもとに、他所と比較しながら北見の気象特性を再確認したい。

## 2. ハイサーグラフで道内各地と比較



第1図 道内各地のハイサーグラフ

第1図は道内各気象官署の平年値を用いたハイサーグラフである。ただし北見についてはアメダス観測の準平年値を使っている。

図で各地を比較すると、北見は

- ①グラフが縦長に立ったパターンを示している。これは寒暖の差が大きい、降水は年間を通じて少ないことを表している。
- ②1月の気温がこの中で最も低い。
- ③網走支庁管内の4カ所はパターンがよく似ており、一つのグループを形成している。他のパターンのグループと気候区が別なことを示している。
- ④同じグループの管内4カ所にも細かい差異はあって、北見以外の海岸部は1月より2月のほうが気温が低い。流氷の影響である。

### 3. 少ない降水量

前項で見たように北見の周辺は降水量が特に少ない地域である。

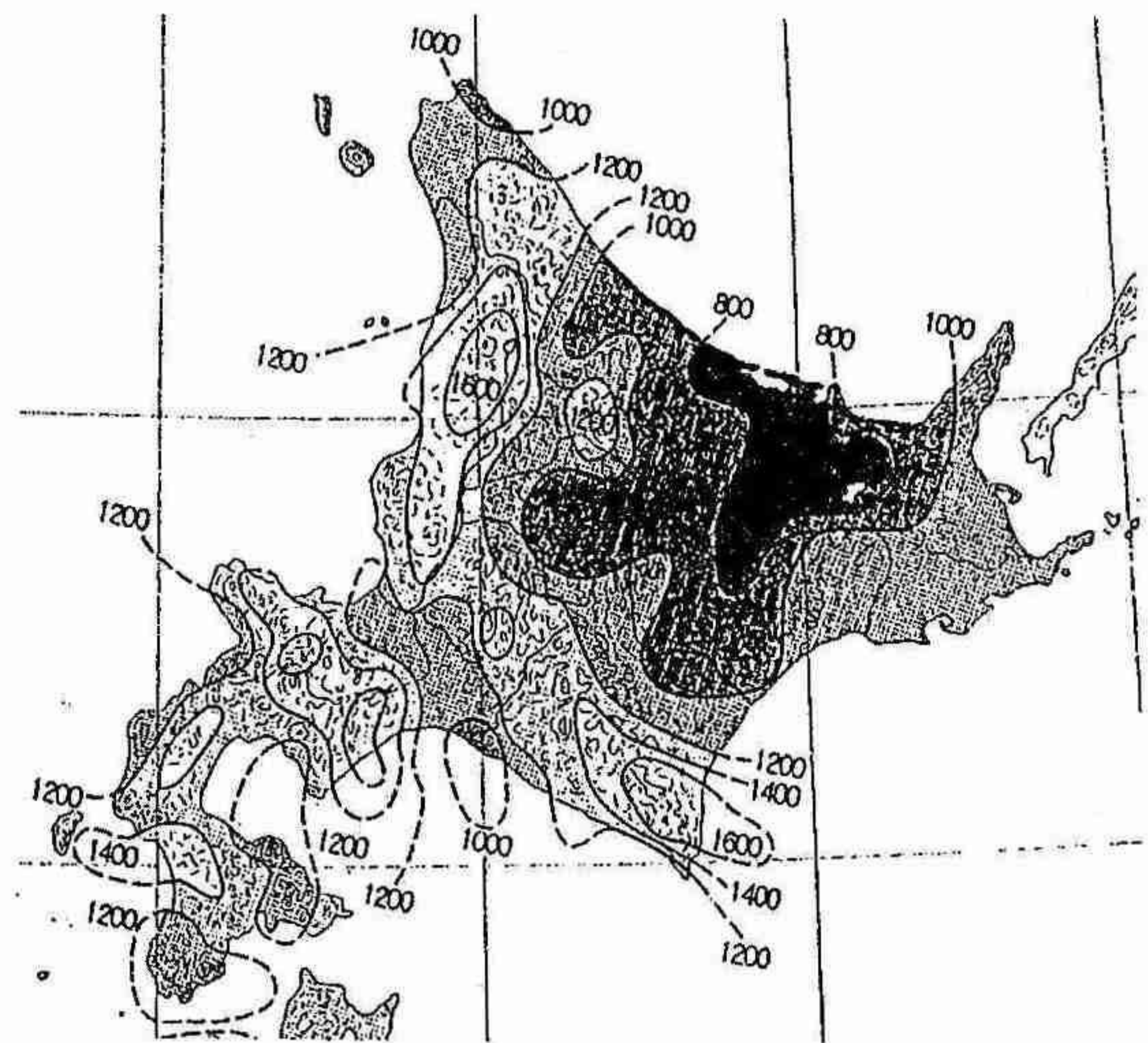
右の第2図は日本気候図(気象庁)の年降水量の北海道の部分である。

図は常呂付近のオホーツク海岸から内陸にかけての一带が道内で最も降水量の少ない地域であることを示している。日本全体から見てもこの地域が最も少ない地域である。

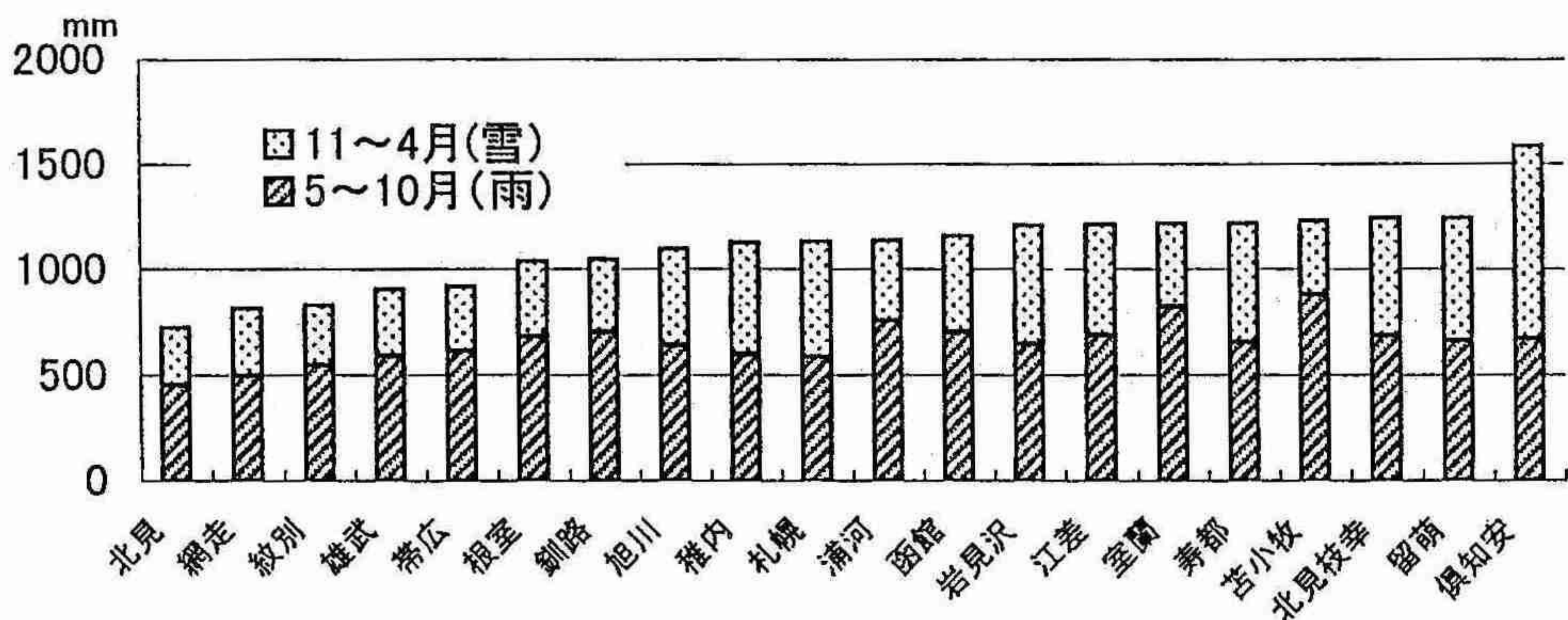
前掲の20地点の年降水量を少ない順に棒グラフにし第3図に示した。

最多の倶知安が1585.1mm、最少の北見は半分以下の719.7mm、少ない方の上位は網走支庁管内が独占している。

棒グラフは上下で模様が変わっているが、下部の斜め縞模様が5月から10月までの



第2図 年降水量の分布



第3図 各地の年降水量

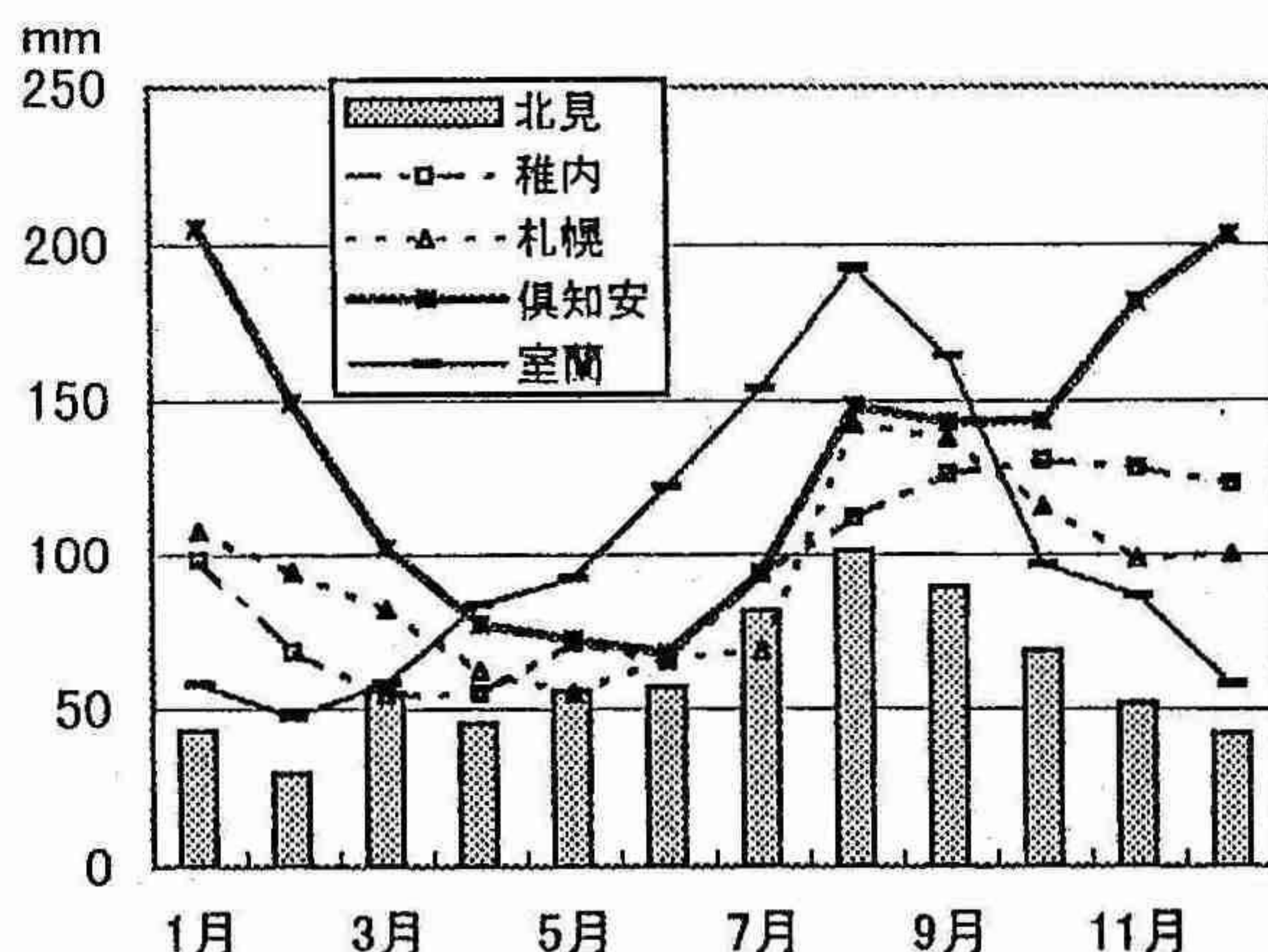
降水量（おもに雨と考えてよい）

上部の点々模様は11月から4月分(雪)である。倶知安は一年の降水量のうち半分以上を雪が占めている。

おもな地点の降水量を各月で比較してみる。(第4図)

8月ピークのところが多いが日本海岸は9月のところもある。稚内はグラフの山がなだらかで秋から冬の初めに降水量が多い。倶知安のピークは1月である。

北見は室蘭とよく似た傾向で、8月ピークのタイプだが、6月から9月にかけて室蘭は北見の2倍近い雨量である。



第4図 月別降水量

#### 4. 日照時間

つぎに北見市民の関心が強い日照を見てみよう。

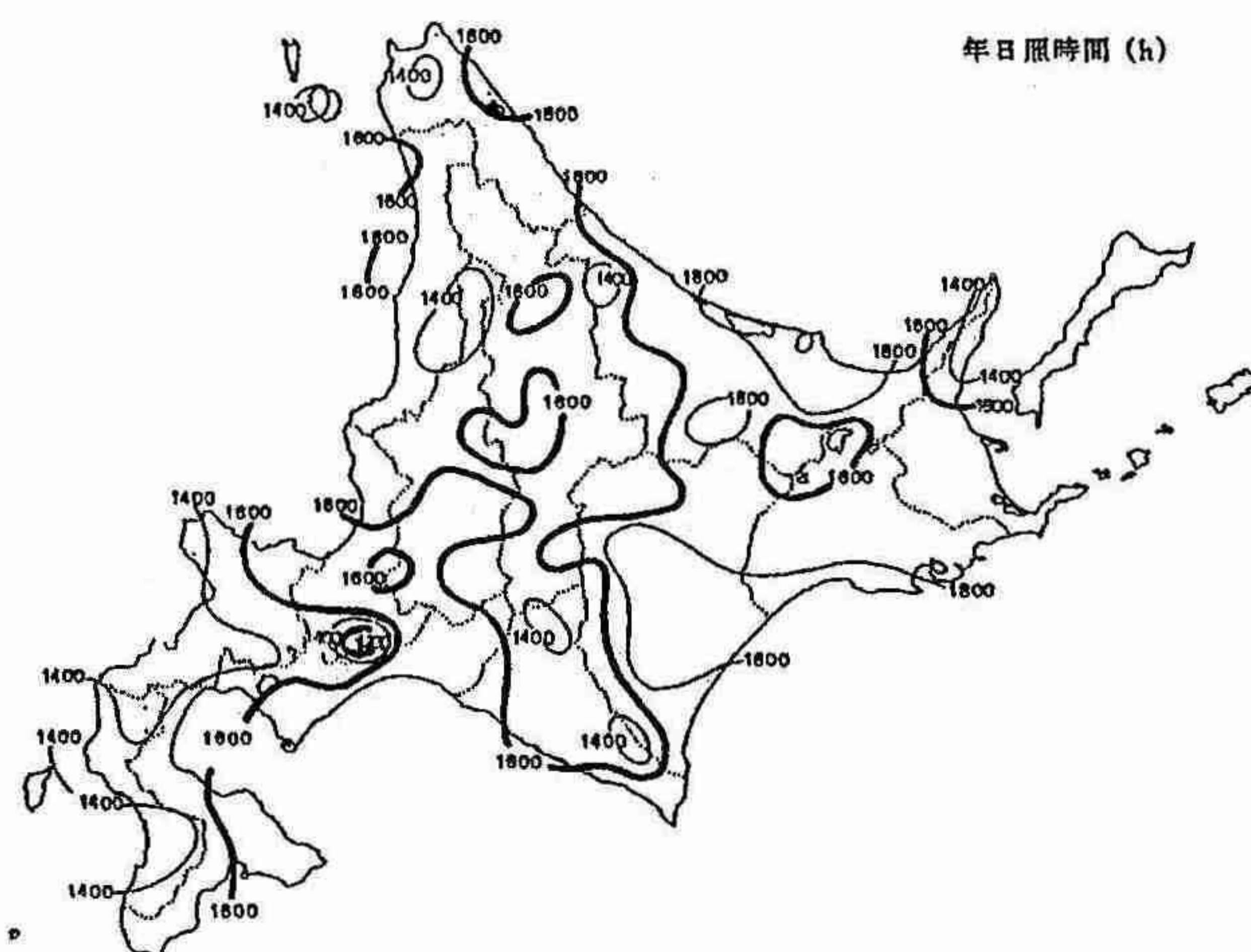
日照の観測は、ある強さ以上の日射があった時間を測る。従って日照時間を定義どおり観測するには時々刻々動く太陽を追って、どれだけの強さの日射が来ているか測定しなければならず、正確に測るにはかなり大仕掛けの測器が必要である。そのため、簡便なタイプの日照計もいろいろあり、改良も進んできているが、それぞれ特性があって、型式の違うもので観測したデータを相互に比較するときは注意が必要である。

第5図は道内のアメダス観測データを用いた年間日照時間の分布図である。

網走支庁から十勝支庁、釧路支庁にかけて日照時間の多い地帯があり、北見も当然日照の多いところである。

全国的には、ほかに瀬戸内海沿岸や東海地方などにほぼ同じくらい日照の多い地域があることが知られている。

この図から特徴のありそうな地点を選び出し、最近5年間分のアメダスデータを使って月別の日照時間を比較した。(第6図) 選んだ地点は網走支庁管内では北見のほか多照の代表の常呂と寡照の代表の西興部、管外は太平洋側の白糠、日本海側の増毛である。

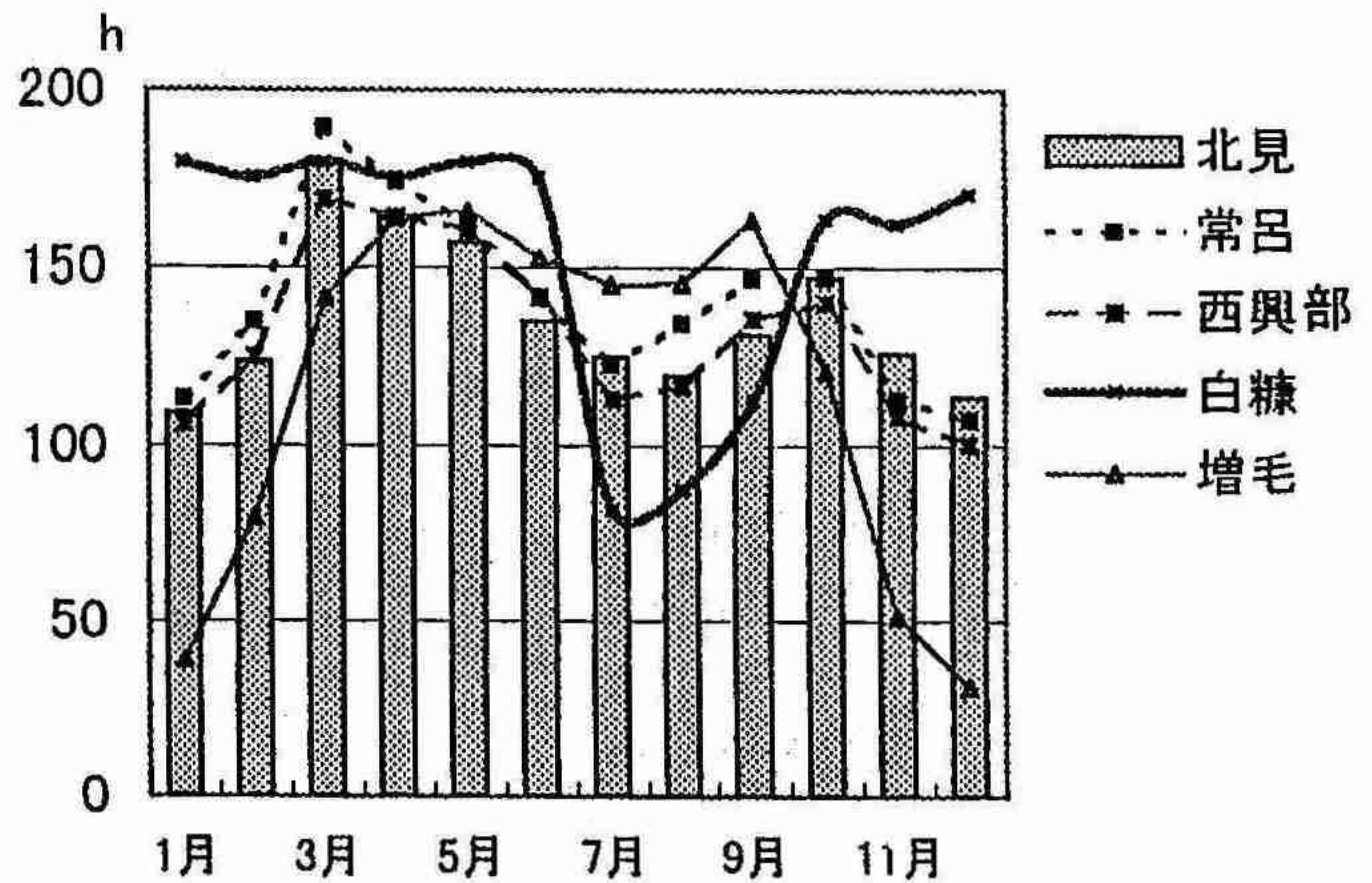


第5図 年日照時間の分布

\*WMOの日照の定義では0.12kW/m<sup>2</sup>以上の直達日射量がある場合を「日照あり」としている。

図を見ると管内の3か所はともに傾向がよく似ている。

一年を通し、日の短い季節も月100時間を超える日照があり、ピークは3月ともう一つ10月にやや低い山がある。盛夏の7,8月は谷になっている。これは年によってオホーツク海高気圧の影響で天気の良い夏があることの反映である。夏の天気が悪い端的な例が白糠で7,8,9月が大きく落ち込んでいる。が、冬にそれを取り戻し年トータルとしては日照の多いと



第6図 月別日照時間

ころに仲間入りしている。増毛は予想されるように冬季間日照が非常に少なく、月50時間を切るまでになるが、暖候期には一転して北見を越す日照時間がある。

観測が難しく、年々の変動幅が大きい日照時間は、引き続き継続的な観測をし、データを蓄積することによって、さらに確かな情報で農業関係やエネルギー問題等に貢献できるようになるであろう。

### 5. 北見の気象極値

これまで平均値から北見の気象を見てきたが、ここでは極端な値、記録的な値について表にまとめておく。記録は破られるものではあるが、北見で起こり得る、ほぼ限界の値を知っておくことは防災上も参考になる。

項目	極 値	起 日
最高気温	37.0℃	1994年8月7日
最低気温	-30.1℃	1985年1月25日
日降水量(最大)	100 mm	1992年9月11日
月降水量( // )	242 mm	1994年9月
年降水量(最少)	429 mm	1984年
最大風速	N 13 m/s	1990年3月13日

統計期間 1979~1998

### 参考文献

札幌管区气象台, 1991: 北海道の気候

〃 1995: 図で見る北海道の気候

気象庁, 1993: 日本気候図 1990年版

北見市, 1976: 北見地方の気候と防災気象「北見気象十年報」